

平成25年度 海域の物質循環健全化計画三津湾地域検討委員会（第3回）

第2回検討委員会指摘事項に対する対応内容

委員名	指摘事項	対応内容
<b>（1）平成25年度実証試験結果について</b>		
齊藤委員	10月に改善区で確認されたルドルフィソメは、浮遊幼生が着底したものか、成体が移動してきたものなのか。	（地域WG事務局）確認されたルドルフィソメは成体サイズであった。浮遊幼生が改善区に着底し成長した場合と、成体が移動してきた場合の両方が考えられる。
柴委員	底質改善剤を底質に鋤き込む方法が難しいのではないか。	（地域WG事務局）網部分はずした桁網の枠のみを曳いて底質改善剤を鋤き込む場合、漁具ではないため操業上の許認可に問題はないことを確認。
濱浪委員	鋤き込み作業については操業許認可等との調整も必要になるのではないか。	
<b>（2）三津湾地域の物質収支モデルによる解析結果について</b>		
山本委員長	カキ殻上の付着生物からの沈降物による影響もモデルで考慮できないか。	（統括検討委員会事務局）カキ付着物の追加に関しては、計算スケジュール的に非常に厳しいため、感度実験として計算を行った。→資料1、2
山本委員長	夏季におけるカキの産卵による成長抑制効果はモデルで考慮しているのか。	（統括検討委員会事務局）産卵における成長抑制そのものはモデルで考慮していない。ただし、高水温による成長抑制効果が入っており、実際に夏季は成長が抑制されている。
<b>（3）管理方策の効果検証結果について</b>		
山本委員長	底質改善剤による硫化水素低減効果の持続性について、再検討が必要である。	（統括検討委員会事務局）底質改善剤のもつ硫化水素吸着能に基づき再計算を実施した。→資料1、2
山本委員長	施肥の効果については、湾全体への影響ではなく、筏エリア内を対象とした小規模な範囲での検討はできないか。	（統括検討委員会事務局）湾奥の筏エリアを対象とした施肥効果の感度実験を実施した。→資料1、2
<b>（4）三津湾地域ヘルシープランについて</b>		
高橋委員	プラン策定のフローに、立案した仮説が間違っていた場合、仮説の再検討に戻る流れが必要である。	（地域WG事務局）仮説の再検討に戻る流れをフローに追加した。→資料3
高橋委員	改善策には、底質改善剤の鋤き込みを実施する際の実施頻度を記載したほうがよい。	（地域WG事務局）物質収支モデルによる計算結果に基づき、実施頻度を記載した。→資料3
山本委員長	改善策として、“基礎生産力の向上”を方針とした策も検討できないか。	（地域WG事務局）施肥による感度実験の結果から“基礎生産力の向上”の効果を検討した。→資料1、2
齊藤委員	底質改善によって具体的にプラスとなる効果がイメージできればよいが。	底生生物を餌料とし、その増加が魚介類の増加にどのようなつながるかを試算した。→資料1、2
山本委員長	底生生物が増える計算結果に基づき、より高次の魚介類がどの程度増えるのか、という試算を物質収支モデルの外で試算してほしい。	
樽谷委員	底質改善剤による対策に、その他の対策を組み合わせることで物質収支モデルによる効果検証はできないか。	（統括検討委員会事務局）計算スケジュール的に非常に厳しいため、今回は対応できなかった。
谷本委員	モニタリング調査位置図には、対策実施区と対照区の両方を明示したほうがよい。	（地域WG事務局）対策実施区と対照区の両方を図中に明示した。